

Z214c 光・赤外線天文学大学間連携による IceCube アラート対応

諸隈智貴 (東京大学), 太田耕司 (京都大学), 山中雅之, 川端弘治 (広島大学), 伊藤亮介 (東京工業大学),
光・赤外線天文学大学間連携

光・赤外線天文学大学間連携 (以後, 光赤外線大学間連携) は, 大学での観測天文学教育と研究を促進することを目指している. 大学共同利用機関である国立天文台と各大学が国内外に持つ中小口径望遠鏡を有機的に結び付けた観測ネットワークを活用し, 大型望遠鏡では達成困難な最先端の時間領域天文学を推進し, 新しい研究課題を創出するとともに, 大学の研究力強化に資するための枠組である. 現在, 国立天文台と9つの国内大学によって構成され, 日本国内のみならず南アフリカ・チリ・米国など経度・緯度方向に地球全体をカバーする観測網を構成している. 各大学により運用されている望遠鏡はすべて 1-2m 級望遠鏡であるが, 今年度中には京大 3.8m 望遠鏡 (せいめい望遠鏡) が加わる予定であり, その柔軟な運用体制により, 特に見かけで明るい突発天体に強みを発揮する.

2017 年度より始まった第 2 期光赤外線大学間連携では, その科学的な大目標の一つに高エネルギーニュートリノの起源天体同定を据え, 特に IceCube アラートに対応した追観測に力を入れている. 本講演では, 可視・近赤外で様々な機能 (撮像・分光・偏光・広視野等) を備えた本連携の望遠鏡群の特徴をまとめた上で, 特に, ブレーザーや超新星を対応天体として想定した追観測戦略および IceCube-170922A を含むこれまでの追観測実績について紹介する.